



広報 ひがし しらかわ

1993
平成5年
11
No.390

- 発行/東白川村
 - 編集/企画財政課
- 岐阜県加茂郡東白川村神土
〒509-13 ☎05747(8)3111
- 印刷/下呂印刷株式会社

人口の動き

—10月末住民登録人口から—

世帯数	908世帯
人口	3,449人
転入	14人
転出	6人
出生	2人
死亡	1人

先月と比較して9人増
 昨年と同月と比較して
 2人増

未来を拓く「^{ひら}整郷の碑」^{せりこう}除幕

去る11月10日、「土地改良事業完成記念大会」が行われ、村内外から約230人の皆さんが参加し、12年に及ぶ一大事業の完成を祝いました。

県営畑地帯総合土地改良事業の最終年度は、平成7年になりますが、今大会はほ場整備のメインともいえる面工事（区画面積284.7[㍍]）と基幹農道3路線（11,749[㍍]）の完成を祝う式典となったもの。

この日は、平後山に建てられた「^{せいこう}整郷の碑」の除幕式、百年道路（基幹農道後山線）の開通記念パレードも行われ、式典に花を添えました。



式辞を述べる土地改良区理事長（村長）

地跡
の掘る
陰遣
の発探

村の歴史に新たな事実



陰地遺跡から出土した住居跡と埋甕（円内）

「東白川村にいつころから人々の生活が始められたであろうか、……それは遠い、まだ文字のない時代であった。」東白川村誌（通史編）七十三ページにこういう一節があります。今月は、今年五月から越原の「陰地遺跡」で続けられている発掘調査を取材して、遠い、まだ文字のなかった時代の村のようすを訪ね、悠久のロマンに浸ってみたいと思います。さあ、一万年のタイムスリップです。

縄文住居跡二軒が出土

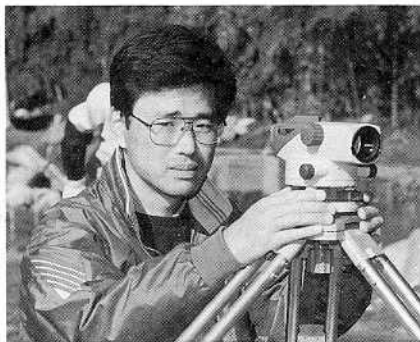
「陰地遺跡」は藤の木橋のたもとにあつて、今回発掘された面積はおよそ一五〇〇㎡。発掘の指揮をとつたのは、財団法人

岐阜県文化財保護センターの各務光洋さんでした。そして発掘作業に当つたのは村内有志約十七人。七か月間の時間と労苦をかけて、十一月いっばいで終了します。発掘を始めてから一か月半くらいまでは大きな収穫は無く、これはダメかな……というようなムードが漂いましたが、中ごろから、ついに村の歴史に新しい



住居跡中央部の炉跡

一ページを加えるようなものを掘り当てました。それは、縄文時代の堅穴式住居の跡でした。堅穴式住居は、中央に丸く並べた炉を作り、周囲を囲むように木を円すい状に立てこれに茅などを立てかけたもの（次ページイラスト参照）ですが、今回の発掘ではこの跡が二つ発見されました。さて、一口に縄文時代といってもその始まりは、およそ一万二千年あまり前にさかのぼり、一万年もの長い間続きました。このため縄文



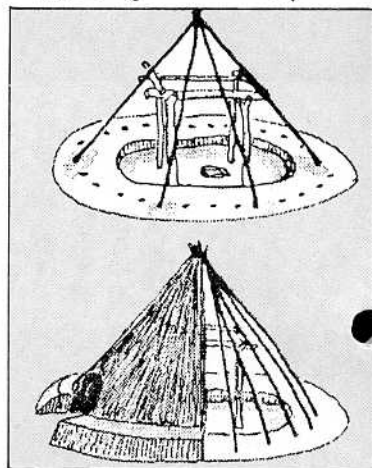
(財)岐阜県文化財保護センター

学芸主事 各務光洋さん

美濃加茂市在住 昭和34年3月9日生 34歳 学生時代から含め、発掘歴11年。県教育委員会の機関として3年前文化財保護センターの発足とともに教職から同センターへ。発掘の魅力について「太古の人類の歴史を明らかにできる点でやりがいがある」と話して下さいました。

時代について考古学では、土器の模様や形、住居の形態などによって六期、(下段の年代表を参照)に分けて考えられています。陰地遺跡で出土した二つの住居跡、いわゆる縄文人の屋敷跡は、いずれも縄文中期のものでした。しかし同じ中期といっても同

時期に存在したものではないようです。発掘場所西側で出土した一号住居跡からは、玄関と思われる部分から、埋葬がほぼ完全な形で出土しています。これは縄文時代の信仰の一つで、「幼児埋葬」に使われたものと考えられています。この信仰は、「七歳までは神の子」という考えに基づくもので、女性がまたぐことの多い所に死産児などを埋葬し、その母体に再び子どもがよみがえることを願った妊



〈堅穴式住居の構造〉

娠術だったようです。

そしてこの埋葬の形式は、おもに東海地方に分布する中富IV式と呼ばれるもので、縄文中期でも後半のもの。一方発掘場所中央部に出土した二号住居跡からは、信州に分布が多い井戸尻III式という型式の土器片が出土。これは縄文時代中ごろのもの。つまり二つの住居跡には三百年近くの隔たりがあり、二号住居跡の方が古く、各務さんの見解では、おそらくこれが村で最古のものであろうとのことでした。

縄文人の暮らしは？

縄文中期陰地に住んでいた人たちは、いったいどんな生活を送っていたのでしょうか。

縄文時代は、文字が無かった時代ですからその生活ぶりというものは、もちろん記録として残っているわけではありません。あくまで想像上の話になるわけですが、これまで全国各地で発掘された縄文遺跡などの調査を参考に考えてみると、ま

縄文時代は、文字が無かった時代ですからその生活ぶりというものは、もちろん記録として残っているわけではありません。あくまで想像上の話になるわけですが、これまで全国各地で発掘された縄文遺跡などの調査を参考に考えてみると、ま



発掘の様子

縄文時代は、文字が無かった時代ですからその生活ぶりというものは、もちろん記録として残っているわけではありません。あくまで想像上の話になるわけですが、これまで全国各地で発掘された縄文遺跡などの調査を参考に考えてみると、ま

縄文時代の遺跡から、石鏃(矢じり)や石斧(土掘り具)が出土していることがそれを裏付けています。また、土器を作っていることから火の使用は始

縄文時代は今よりかなり温暖だったようです。時代が下り平安時代のころは「十二単」に代表されるいわゆる重ね着の文化が流行したようにかなり寒い時期

今からおよそ	1500年から1700年前	1700年から2300年前	2300年から12000年前
時代	古墳時代	弥生時代	縄文時代 草創期 早期 中期 後期 晩期
村の遺跡	● 宮代から土器器出土 ←	● 稲伝来 ● 村内にはこの時期の遺物未発見	◎ 陰地遺跡 ● 神付遺跡・平遺跡・柏本遺跡などから土器・石器など出土

だったようですが、それ以前は今よりかなり暖かったため食料となる木の実や動物がたくさんいたと考えられています。ある意味では、今より豊かな暮らしだったのかもしれない。

〈次ページへ続く〉

地跡をる
の堀をる
陰遺の発探

わたしたちの先祖は縄文人？

稲作のはじまりとともに移動

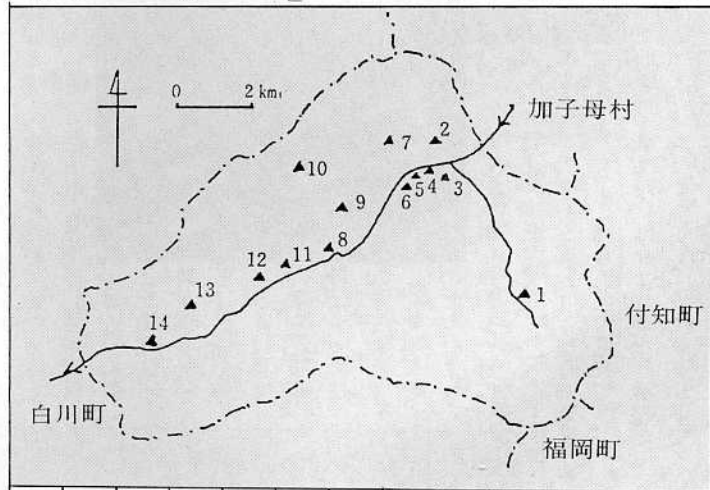
わたしたちの村で確認されている縄文遺跡は、下の分布図のように十四か所あります。しかしそれ以降の出土品は、昭和四十九年宮代で出土した古墳時代の土師器のみです。

つまり、この間およそ一五〇〇年、人が住んでいたことを示す出土品が途絶えているのです。その理由を各務さんは、こう説

明します。「縄文時代の人々は、狩猟や採集による生活を送っていましたから、そこで食べ物が無くなれば、また別の土地へ移動するという形態を繰り返していました。陰地の住居跡の年代が違うのもそのためでしょう。ところが、弥生時代に入って稲

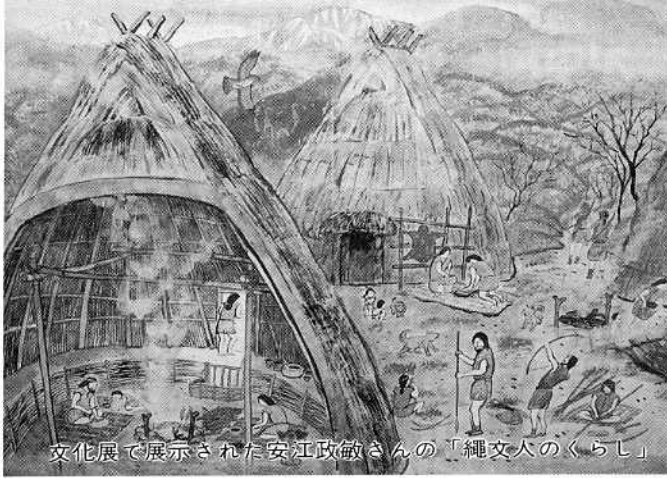
作が始まると一つの所に定住するようになったのです。狩猟や採集をしていたころは、獲物の豊富な山間部に住みましたが、米を作り始めるとやはり山間部からより生産性の高い平野部へと時間をかけて徐々に移っていったのではないのでしょうか」

村内の遺跡と分布



No.	遺跡名	所在地
①	大明神遺跡	大明神
②	日向平遺跡	日向
③	車屋台遺跡	陰地
④	陰地遺跡	陰地
⑤	菊久里遺跡	陰地
⑥	あぜ地遺跡	陰地
⑦	同木林遺跡	曲坂
⑧	平遺跡	平
⑨	中通遺跡	中通
⑩	神付遺跡	神付
⑪	西洞遺跡	西洞
⑫	大口遺跡	大口
⑬	柏本遺跡	柏本
⑭	宮代遺跡	宮代

〔資料〕新編東白川村誌



文化展で展示された安江政敏さんの「縄文人の暮らし」

出土品が物語る交流範囲

今回の発掘で最も注目を集めたものは、堅穴式住居跡の遺構ですが、石器や土器も多数出土しました。

こうした出土品と住居跡の形態をあわせて考えると、当時の人々の交流範囲がわかるそうです。

陰地遺跡で出土した石器の約八割は、下呂町湯ヶ峰を原産地とする下呂石です。石鏃や石斧、削器（皮をはくもの）といった完全に形の残る石器はもちろん、原



出土した石器類

石や加工後の石のかけらもたくさん見つっています。また、数こそ少ないですが、長野県中央部に位置する和田峠を原産地とする黒曜石の石

面までの間のどこかの地で行くゆる中継貿易を行って物々交換などにより石を得て持ち帰り、陰地で加工して使用したのではないかと推定されています。

また、出土した住居跡の形態は、信州方面に分布するものとほぼ同じであるのに、そこから出土した埋葬という風習は、東海、関東地方で特に見られる例

各務さんの見解では、陰地の地に住んだ縄文人たちは、原産地との交流があり、直接そこへ出かけて行き石を持ち帰ったり、下呂方面や信州方

面までの間のどこかの地で行くゆる中継貿易を行って物々交換などにより石を得て持ち帰り、陰地で加工して使用したのではないかと推定されています。

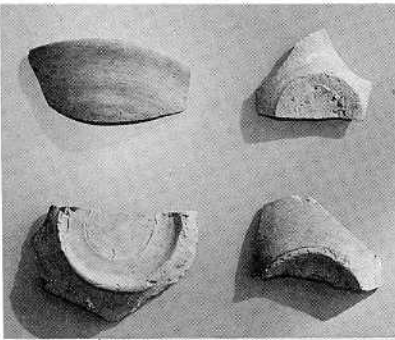
住居跡の形態や出土した石器の原産地、土器の種類などをまとめて考えてみると、陰地に住んだ縄文人たちは、関東・信州文化圏、東海文化圏とそれぞれ異なる文化を取り入れた生活を送っていたと考えられるのです。

中世の山茶わんも出土

陰地遺跡からの出土品は、縄文時代のものばかりではありませんでした。鎌倉、室町時代に日常雑器として使われた「山茶わん」のかけらも大小あわせて五千点近く出土しました。

どこでも山ほど出土することからその名がつけられたといふこの山茶わん。今回のものは、おおむね十四、十五世紀のころに生産したもののようです。

この時期の遺構に「岩屋五輪塔」（陰地）があります。山茶わんを使っていたのが五輪塔の主か、五輪塔を作った人かは、もちろんわかりませんが、陰地周辺にあったといふことだけはどうかやたら間違ったといふことと違います。



山茶わんの破片

陰地遺跡の位置は、白川をさかのぼって、一方は下呂方面（下呂石の原産地）一方は恵那を経

て信州方面（黒曜石の原産地）へ通じ、白川を下れば美濃、東海地方へと出ることが出来ます。こうした地理的条件が異なっ

新しい村の歴史として

終わりにもう一度村誌をひもといてみましょう。

「村内各地で出土している遺物の大半は縄文時代のもので、その遺跡は一四か所確認されている。（中略）そこにはおそらく堅穴式住居が造られていたと思われる。」（通史編七十四ページ）。

今回の発掘調査は、このページを「そこには堅穴式住居があった」と書き改めました。

はるか昔の縄文時代の人々が仮に一時期であったとしても村内に家を建て、生活していたと考えるだけで、時を超えたロマンのようなものを感じずにはいられません。

将来、この陰地遺跡は、国道二五六号線の一部として再度埋められ深い眠りに就きます。

陰地に暮らしていた縄文人たちが、わたしたちの直接の先祖

た二つの文化を取り入れた生活を作りあげていたので。

もちろん車も無ければ、鉄道もない時代です。そんな時代であっても遠方の文化や流行がこの村に存在していたと考えるだけで何かロマンを感じませんか。

であったにせよ、なかったにせよ、原始の時代にこの地に人が住んでいたことだけは、後世に伝えていくためにも、村の正しい歴史として心に刻み、決して忘れてはならないことではないでしょうか。

なお、今回の発掘の現地報告会が十一月二十一日午後一時から行われます。ぜひ皆さんも縄文時代の生活ぶりをご自分の目で確かめて下さい。

本当に貴重な体験でした

「今日は、何が出るか、次は何が出るかとワクワクしながら作業ができました」と話してく

十一月は文化の月。秋の恒例行事となっている文化展が去る十一月二日、三日の両日ふるさとセンターにおいて行われ、二日間で約四百人の方が来場しました。

例年会場となる村民センターが役場仮庁舎となっているため、少々規模は縮小しましたが、小、中学生児童生徒の作品展や文化協会八サークルによる生け花、手芸、絵画や俳句、短歌、狂俳などの力作が会場を所狭しとにぎわせました。

今年の文化展の目玉といえは、「四千年を経て今甦る陰地遺跡」と題した発掘調査に

文化展の展示も好評

関する展示です。

この展示は、文化財審議会の特別展として行われたもの。陰地遺跡の発掘の経緯や発掘作業の方法、縄文時代のあらましなどのパネル展示に加え、今回出土した住居跡の写真や実測図、実物の石器、土器などが展示され、一目で今回の発掘の状況がわかるものでした。

また、これまでに出土した大口、平、神付、柏本の各遺跡の石器や土器類も同時に展示されるなど、実物展示だけでなくも五百点を超えるほど。今年の文化展はちよつとした古代史博覧会となりました。



休憩時間は古代のロマンで持ちきり

れたのは、発掘に参加した有志のみならず、全員の方が、本格的な発掘はもちろん初めてだそうですが、後世に歴史を残すためのお手伝いという夢とロマンにあふれたこの仕事に大喜び。休憩中ももっぱら話は、古代史のことです。



展示会場のようす

た い い く の 日

10月10日

各地で歓声!



さわやかな秋晴れに恵まれた十月十日(体育の日)、神戸、越原両保育園で運動会が、五加地区では「第十一回五加区民運動会」が開かれ、秋空の下、体育の日によさわしいスポーツデーとなりました。

運動会で

国際交流?

今回で十一回を数える五加区民運動会、五加保育園の運動会と合同で、五加地区を柏本、下野地区と大沢、宮代、久須見地区の二つのチームに編成し、今年も盛大に行われましたが、今年、珍しいお客様に参加されました。

この夏に中国から宮代の山口工業と大口のアゼチ木工へ働きにきている四人の中国人の方が飛び入り参加されたのです。

山口工業には、**葵虎さん(29)**と**物志右さん(26)**が、アゼチ木工には、**王平さん(31)**と**王亮喜さん(30)**が、中学校隣にある若鮎荘で生活しながら働いています。

今回、五加区民運動会へ参加



スポーツは万国共通のことばです

するきっかけとなったのは、山口工業へ勤めるお二人が、「日曜日など休日が退屈だ」と話していたためとか。

国は違ってもスポーツに国境はありません。運動会では、障害物競争や借り物競争など、団体競技にはほとんど参加。温かい拍手と声援に包まれて大ハッスルでした。

簡単なあいさつ程度の日本語しか、まだ話すことができない四人に、広報ではインタビューを試みることにしました。

もちろん中国語を話すこと

となどでできませんが、そこは同じく漢字を使う民族、何とかなるだろうと職場を訪ねてみました。紙に「運動会」、「感想」と書くとも四人とも明るい笑顔。

おしらせ



国民健康保険証 が変わります

国民健康保険制度に加入している「あかし」として被保険者証(保険証)が交付されますが、国民の保険証は、社会保険などと違って有効期限は二年です。

現在使用されている保険証は平成三年十一月に交付されており、この十一月三十日でも有効期限が切れ、十二月一日から使用できませんので必ず新しい保険証を使うようにして下さい。

保険証の交付は十一月二十日ごろから村内各地区へ出て、古い保険証と引きかえに交付します。詳しくは、チラシや有線放送などでお知らせします。

ご家族揃ってご参加下さい 第14回産業祭

豊かな心で「ゆとりある暮らしを」をテーマに第十四回東白川村産業祭が来る十一月二

十一日(日)、東白川小学校をメイン会場として開催されます。おなじみの展示コーナーに加え、バザーや大鍋まつり、お茶まつり、神楽獅子など盛りだくさんの企画です。

秋の一日をご家族揃って産業祭でお楽しみ下さい。なお、会場内では年金相談所などの臨時相談窓口も開設されます。

狩猟シーズンを 迎えて

十一月十五日からは、いよいよハンター待望の狩猟シーズンが始まります。しかし、この期間中に心配なのが鉄砲・火薬による事件事故です。

昨年、狩猟期間中の事故は、全国で三十五件発生し、四十三人の方が亡くなられたり、けがをしています。県内でも、一名の方が三か月の重症を負う事故が発生しました。



神土保育園「子だぬきやーい」

両保育園とも園児たちが日ごろ練習を積み重ねてきた成果を一目見ようと保護者の皆さんが多数駆けつけました。中に

神土・越原では 保育園運動会
五加地区で区民運動会が行われた十日には、神土、越原両保育園でも秋の運動会が行われました。

さらに「楽」「苦」と書く「楽」の方を指さしてくれました。たとえ言葉は通じなくても、相手が何を話そうとしているかが、表情や身ぶり手ぶりで、しっかりと伝わりました。「日本生活」と書いた紙には「生活好」との返事。
職場でも言葉はわからなくても明るさと、仕事に対する熱心さで、すっかり溶け込み人気者になっているとか。
彼らの滞在期間は一年半。今回の運動会への参加は、おそろくすばらしい思い出となったことでしょう。



越原保育園「大玉ころがし」

中通農村公園ではドッジボール大会

中通農村公園では、中通・神付・加舎尾の三集落による親睦ドッジボール大会が開かれ、家族連れなど約百四十人が参加、秋晴れの一日に心地よい汗を楽しましました。
この大会は、中通農村公園運営委員会の皆さんが中心になって一昨年から行われているのです。
集落の班単位でチームを編成、小学生から大人まで楽しむことのできる簡単なルールのドッジボールだけに大変な盛り上がりよう。運動神経抜群の子どもた

みとなっている「子だぬきやーい」は、大好評でした。
この競技は、パンツ一つになった子どもたちが、たぬきの絵を書いた肥料袋をかぶり、声を出さずにお父さんや、お母さんに中身を当ててもらうもの。中には、うっかり我が子を間違えてしまったお父さんや、袋をかぶるのが怖くて泣き出してしまった子などアクシデントも続出した。十月十日は村内各地から笑い声がこだまする一日でした。

ちの果敢な攻撃に大人たちも思わず熱が入ってしまったようでした。
大会後は、カラオケにバーベキューにとこちらのほうも大好評でした。



四方八方から多彩な攻撃

図書コーナー

あなたに会いたい

大橋 歩 著



いろいろな種類の不思議な話がたくさんあって、とてもおもしろく読めました。長い小説を読むのは苦手なのですが、眠る前に読むにはちょうどよい短編集だと思います。

推薦人 (27歳 女)

トラックーズ

テリー・プラチエット 著



ノームといわれる小人たちが主人公。平均身長が10cm、動く速度は人間の10倍。住みかを失ったノームたちは引っ越しをするのですが表紙の絵のように、とても楽しい物語でした。

推薦人 (23歳 女)

これらの事故原因は、暴発・誤射・前方の安全不確認の順になっています。また、猟銃などの盗難・紛失事故も後を断ちません。これらの所在不明銃が殺人や強盗、テロ、ゲリラなどに悪用されることがありますので次のことに注意してください。
①鉄砲や弾の保管・管理の徹底
②暴発の防止
③前方の安全確認

十一月は「全国青少年育成強調月間」です

青少年が社会における自らの役割と責任を自覚し、広い視野と豊かな情操を培い、非行に走ることなく、心身ともに健やかに成長することは、親をはじめ社会全体の願いです。
十一月は「全国青少年健全育成強調月間」です。国や県は市町村・関係団体などと一体となり、青少年の健全育成に取り組むこととしています。特に県では「伸びよう伸ばそう青少年」をスローガンに、「青少年の社会参加」「地域における青少年の育成」「健全な家庭づくり」「学校における生徒指導の充実」「職場における青少年の育成」に重点を置き、青少年の健全育成の推進を図っていきます。ご理解とご協力をお願いします。

大会 一段とグレードアップ 秋の清流ます釣り大会

「体長五十センチ級の大物釣り」として白川の秋の風物詩にすっかり定着した感のある「第八回秋の清流ます釣り大会」（東白川村観光協会・飛騨川漁業協同組合主催、中日新聞社ほか後援）が、去る十月十七日五加地区の白川約一・八キロを会場に行われ、村内外から二百五十人を超える釣りファンが腕を競いました。



右も左もサオだらけ

「プしたのです。この大会から今年三月に正式発足した東白川村観光協会が主催者として加わり、村の最大の観光の目玉ともいえる白川により親しんでもらおうと考えたアイデアです。」

ちびっこますつかみには村内外の二十五人が挑戦。子どもたちには水の冷たさなど関係なし。また、抽選会では松茸やお米、野菜などが当たるとあってこちらも大好評。どうやら初めての試みも大成功だったようです。

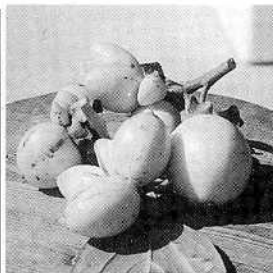
今年で八回を数えるこの大会ですが、今回から少し様変わりしました。昨年までは、いわゆる釣り中心のイベントでしたが、今回からはこの大物釣りに加えて、『ちびっこますつかみ大会』と『お楽しみ抽選会』を実施。釣りをやらないちびっこから、全く釣れなかった」といった調子で最後まで家族ぐるみで楽しめるイベントとしてグレードアップ



ますつかみに大奮闘

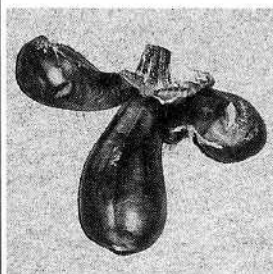
珍品 すっきり秋の名物？ 珍品続々入荷

「秋」といえば食欲の秋。しかし食欲よりも観賞用としておすすめしたいような芸術的な作



神戸正弥さん作

品（？）二題を紹介します。上の写真は、平の神戸正弥さん宅でとれたかき。一つのへた



田口勝司さん作

発掘 石うすを起こしてびっくり 縄文人の竹細工…？

陰地遺跡発掘現場から役場へ「おもしろいものを発見したから…」との連絡をもらいさっそくカメラ片手に訪ねると、なんと見事な竹かごがありました。



石うすを開けたらなんと…

「まさか縄文人の使ったものでは？」と話を聞くと、実はこの竹細工、発掘現場で働いている中島芳造さん（中通）が現場付近にあった石うすを起こした中から出てきたものとか。逆さまの石うすの中で竹の根が竹かごのようにはってできたまさに自然の芸術品です。

から三つにも四つにも分かれました。一方下の写真は大明神の田口勝司さんのナス。何とも説明しにくい形。はたしてお味は？

戸籍の窓—敬称略



誕生おめでとう
ごさいます

(日向) 安江 健郎 祥浩

(平) 安江 孝洋 敏美 (二男)
章江 慶紘 (長男)



いつまでも
おしあわせに

石井 盛二 (三重県木曾町)

安江かすみ (黒洲)

樋口 一則 (中谷)

黒川真也子 (可見市)



おくやみ
申しあげます

三戸 節雄 86歳 (大明神)

善意の寄付—敬称略

〔社会福祉施設整備指定寄付

金〕

現金二十万円—村雲裕 (柏本)

〔社会福祉協議会へ〕



自慢のネギを片手に

今年の冷夏が影響したか、ギネスへの応募が例年ほどありませんでした。

そんな悪天候にもめげず、黙々と自己記録に挑戦した人がいます。神付の今井良吉さんです。

良吉さんは、昨年作った一一芒のネギの記録をさらに三芒上回る一一四芒のネギ作りに成功。見事記録更新となりました。

良吉さんは今年九十三歳。来年もこの長寿ネギの記録更新を期待しています。

挑戦

またまた自己記録更新 良吉さんの長寿ネギ



会場内は華やかな雰囲気

今回で六回を数える「村民さわやかビーチバレーボール大会」が、十一月八、九日の二日間にわたり行われ、二十五チーム、二百三十人を超える皆さんが参加し、熱戦を繰り広げました。

一チームに五十歳以上の男性一人は入れるものの大半が女性ばかりとあって会場内は華やかな雰囲気。なお大会の結果は、日向チームの二連覇でした。

爽快

二百三十人が汗！ さわやかビーチバレー大会



▼クリス先生
▼「ヌチド・タカラ」の1場面



十月三十一日東白川中学校で文化祭が行われ、集まった父兄のみなさんたちを前に生徒たちが熱演しました。

今年の文化祭、生徒たちの活躍はもちろんですが、八月から新しいAETとして赴任されたクリス先生も大活躍でした。

三年B組の演じた、太平洋戦争時の沖繩を舞台にした劇「ヌチド・タカラ」では役者として、

演劇

俳優と脚本家二足のワラジで 大活躍のクリス先生



現在卵は中学校にあります

神付の早瀬甲司さん宅の池に飼っている石ガメが卵を二つ産みました。ウズラの卵を思わせるような大きさと色は白。見たところ二つのもようですがひよつとするとまだ土の中に埋まっていますかもしれない。

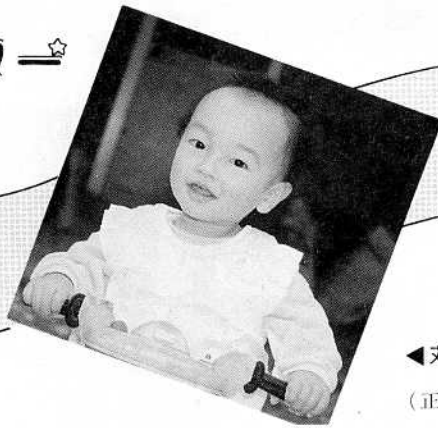
ところでカメの産卵を調べてみるとおおむね五月六月くらいに産卵し、温かい時期に孵化するとか。十月になって温かい日が続いたため産卵の時期を間違えてしまったのかもしれない。

宝子

小春日和のお天気続き 産卵時期を間違えた？

- 現金三万円―三戸侃夫(大明神)
- 現金五万円―安江昭夫(中谷)
- 〔東白川小学校へ〕
- 水仙の球根多数―今井満男(大沢)・五加保育園
- 産経新聞写真ニュース一年分―安江忠昭(陰地)
- ▼ぞうきん四十五枚・竹ぼうき十五本―老人クラブ高砂会
- 〔せせらぎ荘へ〕
- 食器百枚―安江利一(西洞)
- 〔老人クラブ明清会より〕
- ぞうきん二十五枚―せせらぎ荘
- ▼ぞうきん二十五枚―こもればの館
- 工事入札の結果
- ①は入札期日 ②は落札金額
- および落札業者
- ▼新東線道路維持修繕工事
- ①十月五日 ②百九十五万七千円、山田土建
- ▼炭焼き小屋等建築工事
- ①十月二十六日 ②七百九十三万一千円、郎建工業
- ▼遊歩道整備工事
- ①十月二十六日 ②二百四十七万二千元、新田建設
- 教職員と二年生の父兄で行った「ハワイの休日」は、クリス先生の脚本によるもの。思い出に残る文化祭となったでしょう。

このコーナーの子どもたちみな同じ年。
10年後、20年後「広報」をみればホラ！
1歳のあの子の顔が……



◀ 荻田有平くん

(正敏さん・さゆりさん二男一陰地)

満1歳

ふれあい広場

新婚さん♡

■ワン・シヨット■

十一月七日結婚式を挙げられたばかりという、まさに新婚ホヤホヤのお二人、古田耕一さん、幸子さん（上親田）ご夫妻を紹介します。

三年越しの交際の末、ゴールインというお二人。一年くらい前から結婚を真剣に考え始めたとか。「何もかもすべてです」と奥さんの魅力を話すご主人の口調からは、どうやらご主人の方が積極的だったご様子。

奥さん幸子さんは、平のご出身。「温かくて、会話の絶えない楽しい家庭を作っていきたい」と話してくれたお二人、「お子さんは？」の質問には、男の子と女の子の二人がご希望だそうです、しばらくは二人きりの

甘い生活がしたいとか。上親田に素敵なカッブルの誕生です。



古田耕一さん・幸子さん

この写真は引きのぼしてお二人に進呈します。

ふれあい再発見

③ 地質

私達の村は「濃飛流紋岩」の上に乗っかっています。濃飛流紋岩類は地質学上の名称ですが

実物は白川にゴロゴロしているあの岩や砂利や砂粒がそうです。石英、長石などの鉱物を含み、

これが白く見えるので、「白川」の名もそこから生れ、「東白川村」の名の元でもあるわけなんです。

この濃飛流紋岩類は木曾、東濃、飛騨の広い範囲をおおっており岐阜県の面積のほぼ半分になります。

今からおよそ一億年前、この地方に大きな、長い、地殻の割れ目が出来たと考えられ、そこから大量の熔岩が噴出しました。その熔岩が固まったのがあの白川の河原石、すなわち濃飛流紋岩ですが、富士山のように中央の火口を中心に噴火した火山とは違って、割れ目から溶けた岩石が流れ出す現象は一回で終わったのではなく、四千万年ほどの間に何回もあったと考えられ

ており、同じ濃飛流紋岩でもその度に少しずつ性質が違います。通称「青石」と呼ばれている河原石は中でも最も緻密でかたいもの。なぜそれが川にあるかといえば、長い間の水の浸蝕作用にも耐えて残っているからです。

それより粒子の荒いものは当然もろい性質を持っています。ことに、地球の力でこれらもみ砕かれるとボロボロの破砕帯になります。これが「サバ土」と呼ばれ、母岩に鉄分を多く含んでいるため赤味を帯び、私達になじみの深い「赤土」となっているのです。

さて、地球の力で岩をもみ砕く……ということはどういうことでしょうか。それが断層活動と呼ばれるもので、私達の村にサバ土が多いということは、断層が多いということに通じます。





■訂正とお詫び
十月号「ふれあい広場」
満一歳の欄で、高井恵美子
は恵里子の誤りでしたので
訂正しお詫びします。

わたしの村誌

広報モニター

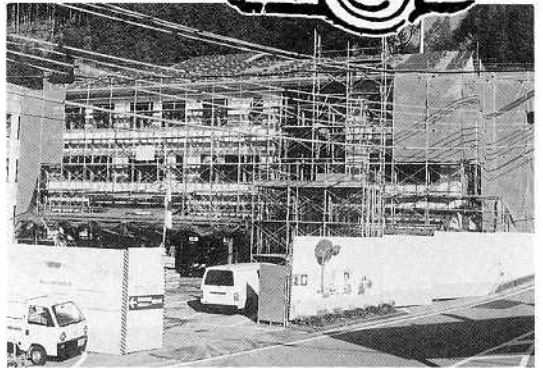
村雲康彦(大日)

テレビのスイッチを入れ
たらちようど「クロウ
ズアップ現代」とい
う番組が始まったと
ころで、「中国残留
婦人」の特集を放
映しており、長野
県出身の横田さん(八十
歳)の永住帰国問題を取り扱っ
ていました。終戦の昭和二十年
八月、当身を体験し、見聞し
た一人としては、まさに身につ
まされる思いでした。

村の出身者で安江宏子さんが



役場庁舎の建設が急ピツ
チで進んでいます。
去る十一月四日には、建
設中の新庁舎二階で、古式
にのっとった上棟式が厳か
に行われました。



今も達者で残留されている。五
十年前ころ一時帰国された当時を
思い出し「わたしの村誌」第三
編を開いて見たら特集記事が載
っていました(昭和五十年十一
月広報66一八六)。

村のおもなできごとは、総じ
て広報に載っているの、私は
大切に保管し、三年くらいで製
本してもらっています。いま第
六編となっていますが、第七編
は、四〇〇号を祝って製本がで
きますので今から楽しみにして
います。
ただ残念なことが一つありま
す。第一編(一号一〇七号)
を紛失していることです。
製本して保管することの良さ



村雲康彦さん

は、扱いやすく、楽しみが増え
ることです。
例えば、二十年前のことであ
っても、現在の状況と比較しな
がら、異なった尺度で読み直す
ことができ、一度で二倍も三倍
もおもしろく読むことができま
す。
この貴重なわたしの蔵書が、
来年はまた一冊増えることにな
ります。

お話を を きかせて ください

独居老人訪ねある記

動かすようにしています」と
と家のまわりを歩くことが
大切な日課です。
大阪へ出ている息子た
ちといずれ一緒に暮らすこ
とが夢」と話すさかゑさん
「息子はいつでも来るよう

「まだ元気で頑張らなあか
んといつも考えて暮らしとり
ます」と話して下さったのは、
柏本の額瀨さかゑさん。
今月は、大正七年生まれ、今
年七十五歳になられた額瀨さか
ゑさんを訪ねました。

さかゑさんは、一人で暮らし
始めて三十年以上になります。
最初一人になられた時は、さ
すがに家がからんとしてしまっ
たようで寂しかったそうですが、
親戚が近くにあることや近所の
皆さんが声をかけてくださるこ
ともあって今は寂しいと思っ
となどないとか。

「何でも気持ちの持ち
ようですすねえ」と話され
るさかゑさん。体は病院
の先生がほめられるほど
健康ですが、足がお悪く、
ひざがほとんど曲がらな
いそうです。それでも、「じ
つとしていたら体が悪く
なるばかり、いつも体を



額瀨さかゑさん

いってくれますが、いざ離れ
るとなると生まれ育った所はいく
つになっても一番住みやすく
ねえ」。と少々複雑なお悩
み。さかゑさんの今の一番の楽し
みは花作りです。花の苗を遠く
から取り寄せるほどの熱の入れ
ようだとか。「花はかわいいで
すよ。小さい時から丹精込めて
作った花が美しい花をつけると
不思議なことに花がほほ笑んで
いるように見えるんです。それ
に花作りの仲間がたくさんでき
ましたし。何か趣味を持つこ
とは本当に大切だと思います」
と元気に話して下さいました。

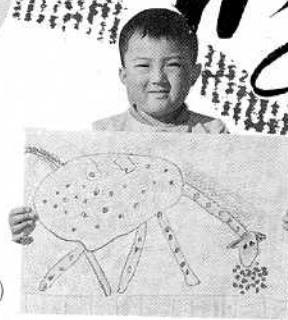
わたしの作品



▲静物「ビン」
東白川中学校1年生
神戸将成さん
(平)



▲「ふえをふく友だち」
東白川小学校3年生 田口侑助さん(平)



▲「きりん」
神土保育園
いまいけんたくん
(中通)



▲「うま」
神土保育園
おおつぼゆりえちゃん(上親田)



▲静物「ビン」
東白川中学校1年生 安江忠之さん
(下親田)



▲「北の空へ」を読んで
東白川小学校6年生 安江奈緒さん(下親田)

広報文芸

俳句

秋暗れて山また山の故郷かな
湖よりの風に秋立つ古戦場
コスモスの咲く休耕田に風遊ぶ
窓よりの十六夜照らす寝顔かな
試みの草矢が天にさ、りけり
新涼の水に沈めし脚白く
逝く秋や味噌汁好み過疎住い
落鮎の細身ゆらゆら流れゆく
棟上げの槌音高し秋の空
楽しみは松茸包み冷蔵す
岩清水掌に受け止め暮参り
新米の試食に満ち足り農夫婦
手術だと宣告受けし夏過ぎぬ
夏雲は紙飛行機の上になり
仰ぎ見る宵月不意にうるみ初む
刈り終えし秋の山腹広く見ゆ
屋根替えに兆して無情秋の雷

狂俳

少しづつ 芽生えた恋が実を結ぶ
味けない 妻に逝かれた部屋広い
◎あつい 太陽熱の湯をうめる
◎あつい あつと言う間に土俵割る
味けない 打寄す波が岩砕く
少しづつ ふじ南極の氷割る
あつい 下手な話で欠伸出る
味けない ためた貯金で車買う
少しづつ 握り合っ手に力入る
◎あつい 昼ごはん一人で食べる
味けない

あなたも俳句・狂俳に挑戦してみませんか。あなたの作品をお待ち
しています。投稿は奇数月の二十日までに、俳句は西洞河田重喜宛・
狂俳は陰地安江永吉宛までお寄せ下さい。なお、次回の狂俳の題は
「新春」「ちよつと一服」「寝たり起きたり」です。

今井 純子(平)	安江 一滴水(日向)
安江 空一(宮代)	安江 一滴水(日向)
田口 薫(加舎尾)	安江 市助(栃山)
安江 すみよ(平)	安江 市助(栃山)
桂川 喜郎(栃山)	新田 義男(加舎尾)
田口 秋映(日向)	新田 義男(加舎尾)
田口 薫(加舎尾)	桂川 喜郎(栃山)
今井 純子(平)	安江 武子(平)
田口 秋映(日向)	安江 武子(平)
田口 秋映(日向)	今井 純子(平)
安江 空一(宮代)	今井 純子(平)
安江 すみよ(平)	河田 あや子(西洞)
河田 重喜(西洞)	田口 秋映(日向)



今年のは
例年になく紅
葉が美しいと
いう話をよく

耳にした。昼間の暖かさと朝夕
の冷え込みとの著しい温度差が、
この自然の芸術品を作りあげた
ものであろうか。▼世界的な視
野で見ると大自然を形成する森
林資源は失われつつあります。
エアコンの冷房や電子部品の洗
浄などに使われるフロンによつ
て地球を取り巻くオゾン層が破
壊され、有害な紫外線が増えて
いることや、自動車の排気ガス、
工場などからの噴煙が原因とな
る酸性雨。また、そうしたこと
で起こる地球の温暖化がおもな
原因です。▼「省エネ」や「リ
サイクル運動」が声を大にして
叫ばれるのもこうした背景があ
るからなのです。▼ところで古
紙一しをリサイクルし、再生紙
として有効利用すれば直径十四
センチ高さ八分の立木二十本が守れ
るとか。広報ひがししらかわが
先月号から再生紙となったこと
をお気付きだったでしょうか。